

行政視察報告書

参加議員	文教経済常任委員会 委員長 小倉尚裕 委員 相馬純子、工藤夕介、柿崎孝治 木下靖
調査期間	令和7年10月21日（火）
調査先及び調査事項	青森県弘前市（つがる弘前農業協同組合） 「リンゴ生産の現状について」

視察概要	
■ 調査先	青森市弘前市（つがる弘前農業協同組合）
■ 調査事項	リンゴ生産の現状について
■ 調査内容	<p>1. 調査日 令和7年10月21日（火）</p> <p>2. 調査目的 リンゴ生産の現状について調査し、本市の参考とする。</p> <p>3. 対応者 つがる弘前農業協同組合 りんご販売部長 廣田 寛央 ほか3名</p> <p>4. 調査事項の説明 （1）説明概要 ①つがる弘前農業協同組合（以下、JAつがる弘前）の概要 平成15年に6農業協同組合が合併して誕生。弘前市、藤崎町、大鰐町、平川市の碓ヶ関地区、西目屋村の地域にまたがっている。正・準組合員合わせて1万2568人となる。販売高では当JA全体の8割をリンゴが占めており、日本で一番大きいリンゴ農協だと自負している。</p> <p>②リンゴが販売されるまで 河東りんご施設では、まず、生産者からリンゴの等級に関係なく集荷し、当JAで選果する体系を取っている。そして、集荷したリンゴは必ず冷蔵、普通冷蔵とCA冷蔵があり、1-MCP（スマートフレッシュ）処理をすることで鮮度保持している。その後、選果において、生産者個人ごと・リンゴ一粒ごとのデータを取っており、生産者がリンゴ個別の価値が分かる仕組みとなっている。続いて、冷凍庫付きのトラックで出荷し、国内市場で販売している。競売のほか、今は相対取引が非常に多く、大体8割は相対取引となっており、量販店、バイヤーと話をして企画を組み込んで販売しているところである。また、輸出に向けた対応も行っている。そして、個別データに基づいて精算を行うということになる。</p>

### ③ CA貯蔵・1-MCP

CA貯蔵は空気中の酸素濃度を下げ、炭酸ガスの濃度を高め、約0℃で貯蔵し、リンゴの呼吸を抑制して、鮮度を長期間保つ。1-MCPとは、新規の鮮度保持剤である1-メチルシクロプロペンのことであり、果実の成熟・老化促進はエチレンが果実に存在するエチレン受容体と結合することで引き起こされるとされているが、そのエチレンと受容体との結合を阻害し、エチレンの発生を抑制する高い効果を発揮するとされている。ただ、この方式に合う品種、合わない品種があり、ふじは合わないものと考えており、風味がなくなるという弊害もあることから当JAでは実施していない。CA貯蔵と1-MCPを実施することで海外輸出時における品質の障害が軽減される。また、国内販売においては、販売時期を延せる利点もあり、従来、4月から有袋ふじとジョナゴールドが販売主体であったが、有袋ふじの数量の減少により販売数量も少なくなっていたため、中生種のシナノゴールド、今年からはシナノスイートも加え、4月以降の販売へのシフトが可能となっている。

### ④ リンゴ販売

青森県における販売は1千億円市場が数年続いており、そのうち約150億円から約160億円、県の約15%を当JAが販売している。

### ⑤ リンゴの品種別出荷時期

未希ライフから金星までの品種があるが、9月から翌年の7月まで年間を通して販売している。シナノスイートについては、11月から販売開始し、期間が空いて、4月の下旬からもう一度販売となっているが、先述のスマートフレッシュ処理のおかげでこのような販売体制ができる。

### ⑥ リンゴの輸出

輸出については台湾・香港が主要な輸出国であり、ほかにベトナム・タイ・シンガポールにも輸出している。令和4年3月からはインドも解禁したところである。令和5年産の輸出量は約3万1千トン、9割以上が青森県産といわれている。台湾については、黄色系のトキの人気や春節向けの贈答需要期に合わせた出荷を進めている。香港では、甘味が強く酸味の少ない王林の需要が多くあったが、中国経済の悪化により輸出量が減少傾向にある。県全体では約10%から15%、当JAでは当JAの全出荷量の約5%から6%を輸出しており、どちらかというところ国内販売に重視を置いているところである。輸出においては、高品質・高単価というJapanクオリティーを売りとして販売している。インドについては、テスト輸送や試食会を実施しており、食味等の評価は非常に高い現状であるが、価格面での折衝がちょっと難航している感じである。今後は、その点で本格販売できるかがポイントになってくるものと見ている。

### ⑦ リンゴ事業の取組

まず、地元の高校生とのコラボ企画について、過去2年にわたってリ

ンゴを使ったレシピを11品目つくっており、そのレシピをQRコードに落とし込み、ポップをつくり、全国のスーパーに掲示してもらっているという方法を取っている。高校生にはリンゴの勉強をしてもらい、そして県外への宣伝販売にも連れていき、自分たちのつくったレシピを持って、リンゴの販売をしてもらおうという教育の場にも一役買っているつもりである。

続いて、初音ミクとのコラボ企画であるが、若い世代にもっとリンゴを食してもらいたいという思いから実現した。昨年度から実施しており、プレミアム感を出すため、令和6年産は限定販売としてネット販売を主体で実施したところであるが、令和7年産は新たな原画を書き下ろして、さらなるネット販売の拡大、輸出の販売が決定している。これは農林水産省でも非常に興味を持っており、日本のアニメコンテンツ、ショップ、輸出の部分でどのようなコラボレーションができていくかということ、今後、我々も取り組んでいきたいと考えている。

そして、モーダルシフトの取組についてであるが、今現在、日本通運とJR貨物、当農協、荷主と物流事業者が一体となって実現したものであり、第26回、今年度の物流環境大賞にエントリーして大賞を受賞した案件となる。トラックからJRへのモーダルシフトは、2024年問題が始まる2年前、2022年から取り組み、当時のJR貨物の輸送量の約10倍になっている。2024年においてJR貨物の貨物数が少なくなるだろうと予測を立て、2022年から先んじて、JR貨物を確保したという事業である。それと併せて、物流の輸送困難時のBCPとして対応するためSea & Railを定期利用する体制づくりをしたところである。山陰地方では、降雪により列車が止まることを回避するため、定期的に青森から大阪まで列車で行き、大阪南港から新門司港や宮崎港へは船を定期的に利用することが最善であろうということで今、週1回使っているところである。CO<sub>2</sub>の削減効果もある。

次に、リンゴ加工の取組であるが、無印良品がこれまで作ったことのないリンゴを使用したチョコの商品を作りたいということで、多くのリンゴの品種で試作したところ、ジョナゴールドが「しみこみチョコりんご」として合うということで、ジョナゴールドに特化して加工品を作った案件になる。昨年度は非常に好評で一瞬にして売り切れた商品となっており、今年度、皆様もよければ手に取っていただければと思っている。

最後は、りんごサポーター会員についてであるが、オーナー制度であり、コープ・デリとの共同企画である。産地と消費者をつなぎ、持続可能なリンゴ栽培を応援するというもので、内容としては、当JAの指定園地を設け、植樹をし、リンゴを栽培する。年3回のリンゴの宅配、情報配信として動画の配信、リンゴの勉強会、産地研修などを行っている。今年初めてのチャレンジであり、会員600名を募っている。今年度は会費1万5000円で実施し、コープ・デリ自体の会員数が約540万人、日本で一番大きい生協と言われており、その発信力、リンゴのPR等が非常に大きいだろうということで、我々も一生懸命取り組んでいるところである。

## 5. 実地視察

### (1) 視察内容

つがる弘前農業協同組合の河東地区りんご施設において選果機、同組合のやさい育苗センターりんご圃場において3種類（樹体ジョイント栽培、トールスピンドル栽培、朝日ロンバス栽培）の栽培方式の視察を行った。

※河東りんご施設での選果機視察の後、同施設で概要説明を受け、その後、りんご圃場での視察を実施した。